

311子ども 甲状腺がん 裁判NEWS

VOL. 9
2024.4.10



公式HP



発行元  311甲状腺がん子ども支援ネットワーク

3月6日、東京地方裁判所で第9回口頭弁論が開かれました。発達した南岸低気圧の影響で、前夜から大雪になった郡山では新幹線の停車トラブルが発生。原告や支援者の一部は開廷ギリギリの到着となりました。こうした厳しい天候にもかかわらず、東京地裁前には大勢の人が詰めかけ、大法廷の一般傍聴席83席に対し、199人が傍聴券の抽選に並んでくださいました。



3月11日夜、東京駅前みゆき通り広場でキャンドルを点し、東日本大震災と原発事故被災者に思いをはせました。 #311のキャンドルナイト

目次

- P2…… 提訴2年を迎えて 原告団長ちひろ /第9回口頭弁論期日のご報告 井戸謙一
- P3…… 蟻塚亮二先生のメッセージ
- P4-5… 東電側が主張する「100ミリシーベルトしきい値論」は成り立たない 西念京祐
阿部ゆりかさんありがとう！/NoNukesGig2024に参加しました！
- P6…… ここが知りたい！福島県「甲状腺検査」の報告書とは
- P7…… 原告さんオススメ！ふくしまの美味しいスイーツ
- P8…… 「サポーターズカード」 始まりました！/今後の日程ほか



提訴2年を迎えて 甲状腺がんとなった子どもたちが 補償を受けられる未来を

原告団長 ちひろ



—昨年1月27日の提訴から、あっという間に2年が経ちました。最初の1年目は、右も左もわからない中でスタートで、当初は、誰も甲状腺がんの問題について関心がないのだろうなという気持ちでいました。しかし実際には、多くの方に関心を寄せていただき、1回目から9回目までの全ての期日で、毎回200名もの方々が裁判所に応援に来てくださいました。それにとっても勇気づけられました。ここまでくることができたのも皆さまのおかげです。本当にありがとうございます。

2年目は、まだ甲状腺がんの問題について知らない方や、若い世代の方にも知ってほしいという願いから、チャリティーTシャツの販売や、日本最大の音楽フェス

ティバル「フジロック」のNGOヴィレッジへのブース出展、弁護団による大学への出前講義など、積極的な広報活動を行ってきました。その先々でも、多くの方から温かいメッセージをいただき、様々な形でのご支援もいただきました。それは、私たちの大きな活力になりました。ありがとうございます。

訴訟も中盤に差し掛かり、今後は個々の原告の立証が始まります。過去を振り返ることは、少し苦痛に感じるところはありますが、がんと診断された他の全ての子どもがしっかりと補償を受けられる未来になるよう、原告団一丸となって頑張りたいと思います。引き続き、応援よろしくをお願いします！

第9回口頭弁論期日のご報告 3年目に入った裁判 今後は各原告の主張立証が中心に

弁護団長 井戸謙一



裁判も3年目に入りました。応援してくださる皆さまの力が、この裁判の支えになっています。これから本裁判にご注目いただきますよう、お願いいたします。

3月6日に行われた第9回口頭弁論期日における原告側の主張立証は、被告東京電力の「100mSvしきい値論」に対する反論が中心テーマでした。被告は、「100mSv以下の被ばくではがんの増加は確認されないというのが『国際的合意』である」と主張しますが、私たちは、そのような「国際的合意」はそもそも存在しないこと、最近の多数の疫学研究において、100mSv以下の低線量被ばくでも線量に応じた発がんのリスクがあることが確認されていること等を詳細に主張、立証

しました。この問題は、これでほぼ決着がついたと考えています。

また、私たちは、今後、各論の主張立証（原告一人ひとりがどのように被ばくしたか、発病及び治療の経緯、人生に与えた影響、どのように苦しんできたか等）に入ることとし、今回は、原告2さんについて、ご本人の陳述書、それに基づく準備書面、ご本人が受けた精神的ダメージについての精神科医蟻塚亮二先生の意見書を準備しました（正式な提出は次回）。今後、他の原告についても順次、同様の主張立証をする予定です。

法廷において、被告は、被告の主張に沿った専門家意見書を提出する予定であると述べました。議論はまだまだ続きます。引き続きのご支援をお願いします。



トラウマの背景には必ず社会的文脈がある。 それは、加害者と被害者がいるということ

相馬なごみクリニック院長精神科医 蟻塚亮二先生

同じがん患者として

私は36歳の時に大腸がんになり、以来4度がんを患いました。だから、同じがんの原告さんの意見書は、私がやるしかないと思ってきました。

最初にごんになった時、大腸がんの生存率は45%と言われていたので、「これはもう死ぬかも」と思いました。未来が見えず、気持ちがつうつとして、こんなことやっていたら本当に死んでしまうと思い、無理やり自分を追い込もうとヨーロッパに渡りました。そこで、精神障害の学会に入れてもらい、ヨーロッパの人と活動するようになりました。英語はできなかったけれど、否が応でも自分を投げ込んだ。その結果、ちょっと異色な医者になりました。

どのように異色かというと、トラウマを抱えた人の診療をやっていくと、必ず社会的文脈にぶつかります。社会的文脈というのは、加害者と被害者がいるということです。日本の精神科医はそこに踏み込むのを避けたがりませんが、私はそれを臆さない。精神科医は被害者の立場に立ってきちんと診療できるかどうかだと私は考えています。

青年期・成人前期のがん

原告の意見書を書きながら、色々な問題が見えてきました。1つは、年代の問題です。原告さんは、10～20代にがんと診断され、検査や治療を繰り返しています。10代は青年期、20代は成人前期といいますが、“アイデンティティ”という言葉を作ったエリクソンという米国の発達心理学者は、青年期や成人前期は、親子関係から仲間関係に移行する重要な時期だと言っています。大人として社会に入っていくための準備に入る時間。でも原告さんたちは、この青春を奪われています。

原告2さんは、大学を中退していますが、すんなり大学に行ったら、毎日キャンパスに通い、サークルに入ったりして、そういう環境で揉まれて揉まれて、就職して、恋愛して、結婚して、家庭を持って、とい

うふうに発達していく。それが奪われた。「私の青春を返せ」、という問題です。

もう1つは、がんサバイバー特有の問題です。がんを抱えて5年以上生きている人をがんサバイバーといいますが、この人たちに特徴的に見られるのは、心身の慢性的不調がずっと続くことです。就職をする時に体力がないというような形で人生の進路を妨害したりする。その問題も感じました。

困難の中で生まれる力、成長

一方、プラス面で強調したいのは、原告同士の交流の大切さです。今はどこの病院でも、がん患者のサロンをやっていますが、患者同士で話をすると、自分を分かってもらえたという体験が出来、お互いを力づける、エンパワーの場になります。原告さんのように、成人前期を奪われた人たちにとって、仲間体験を円滑にすることが、未来の生活を射程に入れるために、大事だと思いました。

もう一つ感じたのは、PTG(Posttraumatic Growth)です。がんにかかることは、それ自体で強烈なトラウマ体験となります。けれど「神も仏もない」ということで、がんを体験しなかった時にはなかったような勇気が湧いたり、なりふり構わず生きるとか、実存的な生存への意思が生み出されて、人格が発展することがあります。これをPTG(心的外傷後成長)といいます。

原告さんを見てみると、単なるがんの若者というだけではなく、とても前向きな姿勢が感じられ、その他のがんの若者の希望でもあると思いました。そういう意味で、原告さんたちは結束して、前に向かって突っ走ってほしいです。おじさんも後ろをついてきます。(談)



※3月6日の支援集会上で上映された蟻塚先生のメッセージより編集部が構成

東電側が主張する「100ミリシーベルトしきい値論」は成り立たない



弁護士 西念京祐

今回、提出した第20準備書面は、被告・東京電力の主張する「100ミリシーベルトしきい値論」の誤りを指摘したものです。「100ミリシーベルトしきい値論」とは、「100ミリシーベルトを下回るような低線量の放射線被ばくでは、甲状腺がんを含む発がんリスクの増加は確認されていない」とするものです。被告は、この考え方が「国際的に合意された科学的知見」だと主張しています。私たちは、これが誤りであることを主張しました。

被告は、「100ミリシーベルトしきい値論」の根拠として「ICRP2007年勧告」を取り上げ、広島・長崎の原爆被爆者の寿命調査「LSS研究」に基づき、「統計的有意差が無い」としています。しかし、これはデータ量が不十分で、統計的な検出力が不足していたという意味に過ぎません。

最新の知見で覆る100ミリ論

アメリカ科学アカデミーの「電離放射線の生物学的影響に関する委員会（BEIR委員会）」は、ICRP2007年勧告の出される前年の2006年、報告書『BEIR-VII』を公表しました。BEIR委員会は、アメリカ政府に助言するために、利益相反のない科学者らを審査によって選出した委員会です。低線量放射線によるヒト被ばくのリスク推定につ

いて膨大な量の学術的検討を実施した上で、「人間における電離放射線被ばくとがんの発生との間に線形しきい値なし線量-応答関係があるという仮説に現在の科学的証拠が合致しているという結論に達した」、つまり100ミリシーベルト以下の低線量であってもしきい値がないとする結論を報告しました。

この『BEIR-VII』には、まだデータ上の弱点がありました。それを補う雑誌が2020年に発行されました。アメリカ国立がん研究所の機関誌JNCIの関連書籍『JNCIモノグラフ誌』です。2020年7月に「低線量被ばくとがんリスクの疫学的研究」の特集を組み、6つの論文群を掲載しました。

この中で、総括的な意味を持つのはドイツの研究者ハウプトマンらの論文です。系統的なレビューを行なって選定された適格性のある疫学研究は26件。そのほとんどが2006年から17年に出版されているとしています。そして、そのいずれもが平均累積線量100ミリグレイ未満で、正のリスク推定をしていたとして、「これらの新しい疫学研究は低線量電離放射線によるがんの過剰リスクがあることを直接支持していると、われわれは結論づける。」としています。

原告の主張	2006年	BEIR-VII報告書 米国科学アカデミー・BEIR委員会（電離放射線の生物学的影響に関する委員会） 電離放射線被ばくとがんの発生との間に線形しきい値なし量反応関係があるとの仮説に合致。
被告の主張	2007年	ICRP2007年勧告 ICRP（国際放射線防護委員会） 100mSvまでの線量範囲でのがんのリスクを直接明らかにする力を持たない。
原告の主張	2017年	LSS寿命調査における固形がんの罹患率(1958-2009) エリックJグラント（放射線影響研究所）ほか 統計的に有意な線量反応関係を示した最小線量範囲は0-100ミリグレイ。
原告の主張	2020年	JNCIモノグラフ誌「低線量被ばくとがんリスクの疫学的研究」特集 NCI（米国国立がん研究所） 新しい疫学研究は低線量電離放射線によるがんの過剰リスクがあることを支持。
原告の主張	2023年	仏、英、米の労働者における電離放射線への低線量被ばく後のがん死亡率（INWORKS）: コホート研究 デイビット・リチャードソン（カルフォルニア大学・公衆衛生学科環境労働衛生部門）ほか 累積線量0~100ミリグレイ及び0~50ミリグレイの低線量域に絞った解析でも過剰相対死亡率は統計的に有意に高いことが観察された。

低線量被ばくに関する科学的知見

LSS研究もしきい値なしへ

被告が引用した「LSS研究」でも、近年、新たなデータが加わり、100ミリ以下の低線量被ばくによる統計的に有意な健康影響を確認しています。LSS研究は、原爆被爆者の生涯にわたる健康影響を調査する研究プログラムですが、この研究を続けてきた放射線影響研究所のグラントらの2017年の論文では、「統計的に有意な線量反応関係を示した最小線量範囲は0-100ミリグレイである」。つまり100ミリ論を否定した報告をしているのです。

さらに、英国、米国、フランスの核施設や原子力機関で働く作業員を対象とした「INWORKS研究」の2023年報告も重要です。この研究は、約30万人を対象に、最長で70年以上追跡した低線量被ばくに関する世界最大規模の研究ですが、その

最新の研究結果では、「累積線量0~100ミリグレイ及び0~50ミリグレイの低線量域に絞った解析でも過剰相対死亡率は統計的に有意に高いこと」が観察されたと報告しました。

被告が引用するような、「がんリスクの推定に用いる疫学的方法は、およそ100ミリシーベルトまでの線量範囲でのがんのリスクを直接明らかにする力を持たない」などと言うことは今や、全くないので。



阿部ゆりかさんありがとう!

1年間にわたって、期日集会で司会を担当してきた阿部ゆりかさんが今年3月、大学を卒業。

3月6日の期日では、ボランティアスタッフ20人で送別会を開催しました。司会者とは別の形で、今後も引き続き応援していただきます。ありがとうございました!



ゆりかさんと集会を支えてくれるユーススタッフ

NoNukesGig2024に参加しました!

音楽を通じて、平和な未来を紡ぎ出す音楽イベント「NoNukesGig2024」に参加しました。

ウクライナ出身の歌手・ナターシャ・グジーさんや、女優の渡辺えりさんなどが、美しくかつパワフルなステージを繰り広げました。私たちは、ロビーに展示スペースをいただき、裁判についてお伝えしながら、ニュースレターを配布しました。



ナターシャ・グジーさんの透明感ある歌声がステージに響きわたる

ここが知りたい! スペシャル

福島県「甲状腺検査」の報告書とは

(OurPlanet-TV 白石草)

弁護団は第19準備書面で、甲状腺検査の最新情報について言及しました。甲状腺検査評価部会や検討委員会がまとめた過去3回の報告書をおさらいしてみましょう。

* * *

甲状腺検査は、福島県が実施している「県民健康管理調査」の一環として、2011年10月にスタートしました。予算は、政府が2011年度の補正予算として支出した750億円と、東京電力が損害賠償として拠出した250億円を基に積み立てた「県民健康管理基金」1000億円から支出されています。

検査は福島県立医科大学に委託されており、福島医大の研究として、倫理委員会の審査を経て実施されています。当初の研究計画では、3月18日の空間線量をもとに県内を4区域に分け、最も線量の高い避難区域13市町村を皮切りに、中通り、浜通り、会津の順で実施。地域ごとのがんの発見率を比較する計画でした。

1巡目まとめ

2016年2月に開催された第22回検討委員会で、1巡目の報告書が提出されました。それによると、(1)被ばく線量がチェルノブイリ事故と比べてはるかに少ないこと、(2)被ばくからがん発見までの期間が概ね1年から4年と短いこと、(3)事故当時5歳以下からの発見はないこと、(4)地域別の発見率に大きな差がないこと、という4つの理由を挙げて「放射線の影響とは考えにくい」と評価されました。

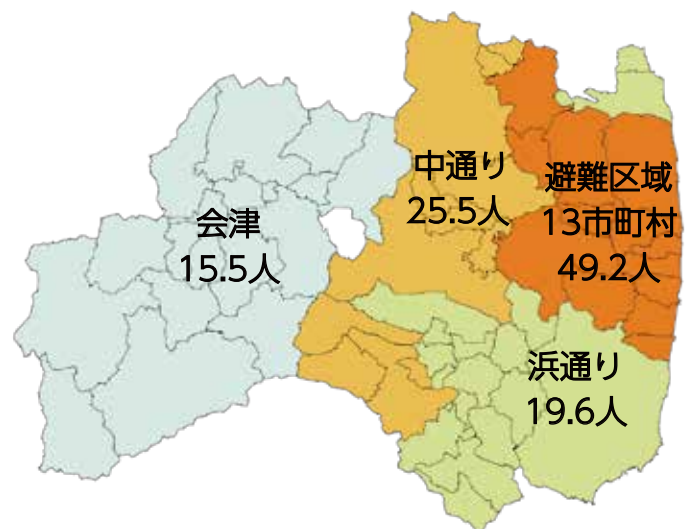
2巡目まとめ

11月30日の開催された第8回甲状腺検査評価部会で、2巡目検査の結果概要が公表されました。それによると、避難区域13市町村、中通り、浜通り、会津の4地域で大きな地域差が生じていることが判明しました。部会長となった鈴木元氏は、交絡要因の調整が必要であると述べ、4地域を比較する解析を中止しました。

しかし、2019年2月の第22回甲状腺検査評価部会で、突然、「町村別UNSCEAR推計甲状腺吸収線量」と甲状腺がんの発見率との解析結果が公表され、発見率に線量依存関係はなく、地域差も生じなかったと結論づけられました。この解析を受け、6月の第23回部会で、中間まとめを公表。「甲状腺がん発見率は、先行検査よりもやや低いものの、依然として数十倍高かった。」「地域別の悪性ないし悪性疑いの発見率について、(中略)避難区域等13市町村、中通り、浜通り、会津地方の順に高かった。」としながらも、同解析を理由に「現時点において、甲状腺検査本格検査(検査2回目)に発見された甲状腺がんと放射線被ばくの間の関連は認められない。」と結論づけました。

7月に開催された第35回検討委員会で、この中間まとめを議論した際、委員の一部から激しい反対の声があがり、両論併記するよう要望がありました。しかし、座長一任となった結果、月末に最終決定した報告書は、何一つ修正されませんでした。

10万人あたりの地域別の患者の発見割合



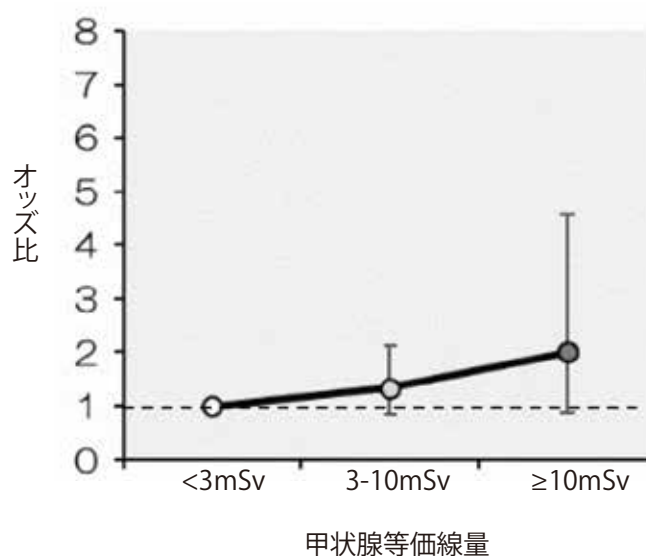
第8回甲状腺検査評価部会(平成29年11月30日)配布資料2-1「本格検査(検査2回目)地域別にみたB・C判定者、および悪性ないし悪性疑いの割合」平成29年6月30日集計をもとに作成

4回目までのまとめ

2023年7月に開かれた第21回評価部会で、検査1回目から4回目までの「部会まとめ」を提出しました。

解析方法は従来のコホート研究ではなく、症例対照研究という解析手法です。甲状腺がんと診断された人と診断されていない人を2群に分け、被ばく線量との関係を比較しました。その結果、県全域の比較では、甲状腺がん患者の方が、被ばく線量が高いという結果（dose and response ≡ 量反応関係）となりました。しかし、有意差がないとして因果関係は否定。12パターンのマッチングを実施した結果、4パターンで量反応関係が見られない結果となりました。これをもって、「甲状腺がんと放射線被ばくの関連は認められない」と結論づけました。

マッチングモデル1（甲状腺検査登録症例のみ）による
甲状腺等価線量における悪性ないし悪性疑い発見のオッズ比



第21回甲状腺検査評価部会（2023年7月28日）配布資料3-1より

原告さんオススメ！ふくしまの美味しいスイーツ



会津のお菓子 会津の天神さま/お菓子の蔵 太郎庵



ふわふわのブッセ生地は、ほんのり優しい甘さ。クリームは、バター風味で小さい固形のチーズが食感のアクセントになっています。甘すぎないため、シンプルで食べやすいお菓子です。期間限定商品は、旬のフルーツの味覚などを楽しむことができ、どれも絶品です。



中通りのお菓子 檸檬(れも)/柏屋



レモンの風味とチーズの濃厚な味わいがまた食べたくなる一品。クリーミーでコクのあるチーズをタルトで味わえます。タルト生地は柔らかく、甘さも控えめ。常温でもおいしく食べられますが、冷蔵庫で冷やして食べると、より一層しっとりさが増しておすすめです。



浜通りのお菓子 めひかり塩チョコ/いわきチョコレート



いわき市の魚の代名詞、メヒカリの形をしたチョコレート。大きめの粒の塩で、しっかり塩味を感じ、チョコレート本来の甘さをより一層引き立てます。中に入っている生キャラメルは、口あたりなめらかで、こちらも塩との相性抜群です。塩チョコが好きな方は、ぜひ！

サポーターズカード始めました！

いつも、裁判期日に東京地裁にお越しいただきありがとうございます！みなさまの支援がこの裁判を支えています。傍聴支援をしてくださる皆さまへ感謝の気持ちを込めて、期日に6回ご参加いただくごとに、オリジナルグッズをお受け取りいただけるサポーターズカードを配布しています。今後も引き続き応援くださるようお願いいたします。

- ①傍聴に来てくださった方に「311子ども甲状腺がん裁判」サポーターズカードをお配りしています。まだお持ちでない方は、期日の日に、日比谷コンベンションホール（14:00～17:00）でお受け取りください。
- ②1回目から9回目までの期日にご参加くださった方は、日比谷コンベンションホールの受付で、過去にご参加くださった回数分のポイントシールを差し上げます。サポーターズカードにお貼りください。
- ③ポイントシール6枚ごとに、オリジナルグッズを差し上げます。



今後の日程

第10回口頭弁論 2024年6月12日(水) 14:00～東京地裁 103号法廷

報告集会は日比谷コンベンションホールで行います。

第11回口頭弁論 2024年9月11日(水)14:00～東京地裁 / 第12回口頭弁論 2024年12月11日(水)14:00～東京地裁

裁判を支えてください

ご寄付(カンパ)

長期の裁判を闘うために、財政支援をお願いします。寄せられたご寄付は交通費などの経費および調査・翻訳・意見書作成などの訴訟費用に充てられます。

裁判期日に参加する

裁判の盛り上がり、判決を左右します。口頭弁論期日に東京地裁にお集まりください。法廷で傍聴できる人数には制約がありますが、報告集会等を行います。裁判の経過を共有し、まわりに広げてください。

賛同団体になる

賛同団体に登録し、この裁判を支える輪を広げてください。ホームページから登録できます。

311子ども甲状腺がん裁判 住所と電話番号が変わりました！

【発行元】311甲状腺がん子ども支援ネットワーク 【発行日】2024年4月10日
〒107-0052 東京都港区赤坂8-6-17 赤坂グランドハウス211 光前法律事務所内
【TEL】03-3296-2724(平日:午前10時～午後5時) 【FAX】03-5412-0829
【E-mail】info@311support.net 【HP】https://www.311support.net/

311子ども甲状腺がん裁判 寄付振込先

●郵便振替

記号:00170-7 番号:393240

口座名: 3 1 1 甲状腺がん子ども支援ネットワーク
サンイチイチコウジョウセンガンコドモシエンネットワーク

●ゆうちょ銀行

店番:〇一九支店 当座預金 口座番号:0393240

口座名: 3 1 1 甲状腺がん子ども支援ネットワーク
サンイチイチコウジョウセンガンコドモシエンネットワーク

●城南信用金庫

九段支店 普通預金 口座番号:355663

口座名: 3 1 1 甲状腺がん子ども支援ネットワーク
サンイチイチコウジョウセンガンコドモシエンネットワーク

『銀行からお振込みの際は、HP「ご寄付お申し込みフォーム」よりお知らせください。』

●READYFOR継続寄付(月額支援)

クレジットカード決済となります。詳しくはこちら→



このニュースレターは原告が企画・デザインしています